

阪神淡路大震災復興事業報告

1995年1月17日午前5時46分、2680地区を直撃した阪神・淡路大震災の被害は淡路島、神戸市、阪神全域に及び、死者6,394名、負傷者40,071名、家屋全壊103,934戸、半壊136,096戸という未曾有の大惨事となりました。

震災直後から、国内はもとより全世界のロータリアンの皆さまから暖かいご支援を賜りましたことを心から感謝しつつ、地区内全会員が一丸となって復旧から復興に向かって努力しました。10年が経過した今日、うわべは昔日の面影を取り戻したかのように見えますが、一步路地裏に入ればまだ各地に更地が残り、中高年被災者の自殺、震災復興住宅での孤独死、いまなおPTSDの後遺症に苦しむ子供たちも沢山おり、この地域全体がかつての活力を取り戻す日の遠いことを実感しております。

このたび期せずして大地震が中越地方を襲い、未曾有の大惨事を引き起こしました。この大地震の中で、どこから手を付けるべきか迷いながら、懸命の努力をしておられる被災地ロータリアンの皆さまに、少しでも参考になればと考へて、当2680地区および被災クラブが実施した震災復興活動のあらましをご紹介しますと思います。

1.地区レベルの活動

☆ 救援物資購入 6,440,000円
震災直後に、牛乳、水、食料、バイク、携帯電話等を要請のあった被災地のクラブに届けました。

☆ 被災クラブ交付金 36,000,000円
震災直後に、用途を限定せずに、18の被災クラブに2,000,000円ずつ分配しました。一部を被災したクラブの備品購入に充てたクラブもありますが、会員に分配したクラブはなく、ほぼ全額が奉仕活動に使われました。

☆ ローターリー子どもの家 347,308,000円 建設費および10年間の運営費
神戸市中央区内の真生塾の敷地内に、ロータリアン、ローターアクター、インターアクター等の勤労奉仕によって建設した施設です。当初は震災で親を亡くした子どもの収容施設として建設しましたが、その後、仮設住宅居住者や児童を対象に様々な事業を行い、現在は、不登校児や一般の子供のための施設として活用しています。運営はロータリアン、インター・ローターアクター、専従スタッフ、その他多くのボランティアによって実施されています。子どもの家を中心にした被災者（児童）支援の主な活動は、メンタル・ヘルス・ケアを中心とする治療的プログラム、ボランティア指導者養成プログラム、広報啓蒙活動、被災家庭へのボランティア派遣、不登校児童のフリースペース、不登校児を持つ親のためのカウンセリング等です。

☆ ローターリー・フレンドシップ・ハウス（留学生の家） 費用は子どもの家を含む
震災で住居を失った留学生の収容施設として、神戸YMCAの敷地内にロータリアン、ローターアクター、インターアクター等が自ら汗を流して建設した施設です。なお、留学生以外にもボランティアやスタッフの受け入れ施設としても活用されましたが、被災留学生がいなくなった時点で撤去しました。

☆ 震災復興同額補助金制度 86,000,000円
ロータリー財団の同額補助金を模して、クラブ・レベルで震災復興事業を行っているクラブに、地区からほぼ同額の補助金を支給しました。19クラブの事業に対して約8,600万円の補助金を交付しました。

☆ 米山奨学生支援金 2,800,000円

っていなかったことでしょう。しかしながら一般的に理解されがたい物事だからこそ同様の感性をもった人間同士というものは、社会的境遇の差によらず、強く結びつくことができるのかも知れません。

シェパードを通してお会いした人達のなかで、いまでも鮮明に思い出されてならないのは、あのミルキーで一世を風靡した不二家社長藤井五郎氏です。氏と私とでは、地位、名誉、財産どの社会的立場をとっても雲泥の差があるにもかかわらず、氏は私を田園調布にあるご自宅に招かれ時が過ぎるのも忘れるほどシェパード談義に花を咲かせることができました。普通の生活をしていたら、お目にかかることもないであろう方と臆面もなくお話しすることができたのです。それはまるで、藤井氏と私の感性がシェパードという共通の関心事を通してどこかで一致していたのかとも思えるほどでした。この出来事は趣味や道楽といわれるような世界において、気脈のつながりは、如何な社会的立場をも超えていくものであり、また感性の通じた相手との歓談はとても心踊るものだと思ひました。

その後、25歳で家庭をもち、28歳で「花」と出会いました。自らの生業を花と定めたのは、その多様性、専門性が私の性格に極めて適した結果であると思ひます。花は扱えば扱うほど面白く、毎日相場との戦いに明け暮れておりました。30歳を迎えた頃にはあれほど熱を入れていたシェパードたちとも別れなければならないほど忙しくなりましたが、日本国内の大手花き卸売業者とも知り合うようになり、商圈は拡大し仕事は充実しておりました。

40歳を過ぎたころに思いがけぬ出会いがあり日本画の世界に魅了され、日本屈指の先生方と親しく言葉を交わす機会にも恵まれました。特に日本画壇の重鎮でいらっしゃる岩澤重夫先生、後藤純男先生、そして竹内浩一先生とお話は特に楽しく、先生方がそれぞれの作品において表現したかったことを、つぶさにうかがうことができました。先生方の絵に対する思いの深さや、画いているときの心の動き、宗教観、大きく言えば宇宙観に感心し、その姿勢には感動すら覚えました。

第32回日展に出品されていた「山水」にいたく感激し、知人を通して岩澤重夫先生をご紹介いただいた時のことです。先生のご自宅で芸術院賞を受賞された作「溪韻」（第24回日展出品）を画かれたときのお話しを伺うことができました。先生は趣味である鮎釣りのために、ご自宅から約30キロ離れた溪谷に20数年間通い続けられました。朝霧の中、山を越え、谷を越え意中の釣り場に向かわれる道中、その溪谷の一角を通る度に先生の絵心を捕らえて放さないところがあり、いつかその大自然の山水をご自身の作品にと、心に温めておられたのが「溪韻」として日の目を見たのだそうです。この日は他に、1989年の大回顧展に出品された横幅15メートルもの大作「天響水心」のスケッチから完成に至るまでのお話しもうかがうことができ、先生の感性の広さに感銘を受け、先生のお話にただただ聞き入っていたことを思い出します。

また親しくお付き合いいただいております、京都芸術大学教授の竹内浩一先生から今年の1月、日本経済新聞に猿が画かれている作品より十の作品を選ぶ、「猿十選」を執筆されるとのお話しをうかがい連載を心待ちにしておりました。当初竹内先生自作の十選かと思ひましたが、執筆依頼は自作以外の十選だったそうです。先生はこの猿十選で非常に事細かに、また解りやすく作品を解説しておられます。先生の説明は作品の技法のみならず、作品から作者の人柄をも推量されており、その視点はまさにプロの見地とでもいいでしょうか、おおよそ常人の感性ではおよぶことができないものだと感

このような方々との出会いは、私自身にとって生涯の宝となるでしょう。そしてこの出会いをもたらしたものこそ、日々プロとして専心し、物事にのめり込んできた結果であると思っております。これから宝をひとつでも多く手にするために、よりいっそう精進しプロとしての感性を磨き続けていきたいと思います。

会 員 の 声： 第11代幹事・14代会長 佐藤 義英

私をRCに誘ったのは今井君である。北RC発足前のある日今井君の顔を立てるつもりで梨本さんの面接を受けた。確か今の信用金庫中央支店の一室であった。作業衣のまま、なんとはなしに話を聞いた記憶がある。梨本さんからそんな私を見て「ロータリーは毎週なんですよ。出席できなければ無理に入会してもらわなくてもよろしいですよ!!」だった。今の入会の勧誘の仕方とは偉い違いだなとは思いませんか？自分も毎週となるとどうかな？という不安があった反面ようし、しれじゃ休まずに出てやろうじゃないか!!ということていろいろ迷いましたが「ロータリーとは!!」もまったく分からずに結局入会したのでした。今でも梨本さんにその時の事をお話すると「そんな事、私言いましたかね、」とおとぼけです。

私が会長をやってからもう5年が過ぎた。いや5年しかというべきか。この原稿を書くために会長時代の週報を引っ張り出してみた。写真を見ると皆んな若かった。会長挨拶もひとはゴルフの事しか言わなかったようにいうが、けっこう他の事や偉そうな事もいっぱいしゃべっていたように思う。

分割前で群馬県と一緒に最後の年度でガバナーも館林の高木ガバナーであった。地区協も、地区大会も全て陸の孤島の館林、片道約4時間もかかった。

私は堀川年度に幹事をやった。会長が楽か、幹事が楽かと良く言われるけれども私はそれぞれに思い出があり、それぞれに会員の皆さんに協力して頂き、大変貴重な経験をさせてもらったと思っています。そしてロータリーの事がやっと少しは理解できるようになってきました。どうか未経験の会員の皆様早く、幹事、会長をおやりになる事をおすすめします。

12月のお祝い：

誕生日			結婚記念日		
会 員	夫	人			
	山中	信子	1	佐藤	義英・ミチ子 5
	梨木	三枝子	2	斎藤	正・裕子 23
	羽賀	美美子	4		
	今井	房子	4		
	山崎	八重子	8		

12月7日例会：年次総会

12月14日例会：卓話 中條耕二会員

12月21日例会：クリスマスパーティー

12月28日例会：休会（年末）

1月4日例会：休会（正月）

1月11日例会：新春例会 担当斎藤会長

2004年11月22日

RI2560地区ロータリークラブ
会長各位

RI2560 地区
災害対策本部長
ガバナー 横山 芳郎

義援金のお願い

このたびの中越地震にあたり、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、復興に向けて、ご尽力頂き、厚く御礼を申し上げます。

RI2560地区は既に災害対策本部を設置し、鈴木重壺・現地統括本部長（長岡RC）を中心に支援活動を行っております。被害状況が判明するに従い、日に日にその深刻さをましており、これから厳冬に向かい、より一層の支援活動を行わなければならない状況と捉えております。

去る11月10日（水）にRI2560地区パストガバナー、Gエレクト、Gノミニー・各分区アシスタントガバナーよりご出席頂き、災害対策アドバイザー緊急会議を開催致し、被災地アドバイザーからの切実な状況をお聞きしました。

災害対策本部では、義援金の使途については長期的な視点に立ち「義援金使途検討委員会」を設置することになりました。そのメンバーは被災地クラブの会長（11クラブ）と対策本部参与（3名）、現地統括本部長、新潟統括本部長の16名にお願い致します。各クラブにおかれましては「今、ロータリーにできること・・・」について活発な議論をしていただき、積極的なご意見、ご提案をお寄せ願いたく存じます。

＜義援金の使途についての基本的な考え方＞

- 1 目先にとらわれないロータリーらしい有意義な使い方をしたい。
- 2 行政が手の届かない(届きづらい)被災者への支援をしたい。
- 3 できる限り公平にして、善意が将来につながる方法をとりたい。
- 4 ロータリーとして独立した支援としたい。

なお、被災RCへのお見舞金については義援金には手を付けず地区会計から拠出いたします。

既に自主的にご支援をいただいているかと思いますが被災地RCより復興には相当の時間がかかり、問題は山積みしており更なる支援をお願いしたいとの声があります。あらためて、義援金をお願いする次第です。

地区として、義援金の目標額は定めません。判断、行動の自主性は各クラブにあると考えております。

義援金振込先

第四銀行本店 普通預金口座 NO 2401798
口座名 2560地区 ガバナー 横山 芳郎

★参考資料として芦屋川RCのパストガバナー田中毅さんの書かれた「阪神淡路大震災復興事業報告」を同封いたします。